

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2022年4月14日

事業ID: 2020556987

事業名: 日初・公明・六期の子種のと起んに社本財・社財財  
資源循環のエコノミー形成

団体名: 一般財団法人社会変革推進財団

代表者名: 代表者 大野修一 印

TEL: 03-6229-2622

事業完了日: 2022年3月31日

■契約時

事業費総額	:	490,090,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	490,090,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	366,722,608 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	608 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	366,722,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	123,368,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。  
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. インパクト投資推進  
 (1) 日本インパクト投資2号ファンド運営  
 (2) シングルマザー起業家支援  
 (3) 成果連動型民間委託/ソーシャルインパクト債券推進  
 (4) インパクト投資専門組織の支援  
 (5) インパクト投資実践者・政府関係者のコミュニティ運営

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. インパクト投資推進  
 (1) 日本インパクト投資2号ファンド運営  
 ・投資先は4社増加し、8社となる。(運用残高は変更なし。36.5億円)  
 ・既存投資先4社の社会的インパクト評価を支援  
 (2) シングルマザー起業家支援  
 ・起業家3名の事業進捗や生活・精神面の状況のモニタリングの実施  
 ・社会的インパクト評価(中間評価)への着手  
 (3) 成果連動型民間委託/ソーシャルインパクト債券推進  
 ・法務省「再犯防止ソーシャルインパクト債券事業」における、法務省側アドバイザーとしての協力  
 ・内閣府「SIB組成のための自治体および民間評価機関への補助・委託事業」(2021年開始)への協力  
 ・既存案件2件(「岡山市健康ポイントSIB」、「大阪府豊中市禁煙SIB」)におけるモニタリングの実施  
 ・民間団体共催勉強会(SVJ-DBJ-SIIF合同)の実施(計3回)  
 (4) インパクト投資専門組織の支援  
 ・プラスソーシャルインベストメントの経営全般モニタリング・支援の実施  
 (5) インパクト投資実践者・政府関係者のコミュニティ運営  
 ・「日本におけるインパクト投資の現状2020」の発行  
 ・金融庁とGSG国内諮問委員会共催の「インパクト投資に関する勉強会」の開催(計3回)、同勉強会1年目の活動報告書の作成  
 ・GSGインパクト評価・マネジメントワーキンググループによる投資家向けガイドライン・実践ガイドブック・ディスカッションペーパーの作成・発行  
 ・インパクト投資フォーラムの実施(参加者263名)  
 ・「インパクト志向金融宣言」イニシアチブの主導(署名金融機関:27機関)



(3)成功したこととその要因

**事業を実施し成功したこと、その理由を記載してください。**  
 ・日本インパクト投資2号ファンドは、日本ではまだ事例の少ない外部投資家が参加するインパクト投資ファンドのモデル開発を目的として2019年6月に設立。今年度は、投資先を順調に増やすことができた。その要因としては、社会的企業の質と量の向上であり、その中でも特に上場を目指す社会課題解決型ベンチャー企業の増加があったこと(外部要因)である。また、ファンドとして、投資対象としている社会課題領域を「教育・子育て」、「働き方」、「介護」、「ヘルスケア・医療」の4分野に分け、分野ごとにワーキンググループを設置し、社会課題の洗い出しや投資先候補企業の発掘作業を深化させたため(内部要因)と考える。  
 ・「インパクト志向金融宣言」イニシアチブの主導については、第一生命、三井住友信託銀行など、27の金融機関が、自らの経営方針として、環境と社会の課題解決に取り組み、その成果を測定し、共有し、さらに推進・普及していくという宣言であり、日本の金融業界に、自律的・持続的にインパクト投資・融資を発展させていく気運を醸成させるという点において、大きな成功であったと考える。その要因は、国内外のインパクト志向の高まりと期待があると考える。

(4)失敗したこととその要因

**契約時に予定したとおりに事業を実施できなかった場合は、実施できなかった理由を記載してください。**  
 ・シングルマザー起業家支援において、支援起業家3名のうち、1名が体調およびメンタル面での問題がありプログラムから離脱、事業を休止中。パートナー団体と綿密に情報共有・連携を行い、当該起業家に適切な対応が図られていることをモニタリングするとともに、今後のプログラム運営の改善に役立てていく。

(5)事業内容詳細

上記「(2)事業完了時の事業内容(実績)」の詳細について、ご記載ください。別途報告書を作成されている場合は、それを添付いただければ省略可能です。

1. インパクト投資推進
- (1)日本インパクト投資2号ファンド運営
- ・投資先は4社増加し、8社となる。(運用残高は変更なし。36.5億円)
  - 出資企業
    - 1)株式会社コンパス:低所得者向け、デジタル版ハローワーク
    - 2)株式会社Link:外国人材向け就学、就労、生活支援事業
    - 3)カイト株式会社:介護職人材のマッチング
    - 4)株式会社助太刀:建設現場ではたらく人の働き方改革
  - ・既存出資先4社の社会的インパクト測定・マネジメンを支援
  - ・既存出資先1社の上場準備プロセス支援
  - ・LP(外部出資者)向け勉強会の開催
  - ・当該ファンドのインパクトレポート(成果報告書)2021の作成
- (2)シングルマザー起業家支援
- ・起業家3名の事業進捗や生活・精神面の状況のモニタリングの実施
  - ・社会的インパクトインパクト測定・マネジメン(中間評価)への着手。今後必要な対応策を抽出予定
- (3)成果連動型民間委託/ソーシャルインパクトボンド推進
- ・法務省「再犯防止ソーシャルインパクトボンド事業」(初の国直轄SIB)モデルにおける、法務省側アドバイザーとして、事業の企画設計やインパクト測定・マネジメンに関する助言の実施
  - ・内閣府「SIB組成のための自治体および民間評価機関への補助・委託事業」(2021年開始)における助言の実施
  - ・既存案件2件(「岡山市健康ポイントSIB」、「大阪府豊中市禁煙SIB」)におけるモニタリングの実施
  - ・民間団体共催勉強会(ソーシャルバリュージャパン-日本政策投資銀行-SIIF合同)の実施(計3回)、報告書の公開
- (4)インパクト投資専門組織の支援
- ・プラスソーシャル株式会社の経営全般モニタリング・支援の実施
- (5)インパクト投資実践者・政府関係者のコミュニティ運営
- ・「日本におけるインパクト投資の現状2020」の発行
  - ・金融庁とGSG国内諮問委員会共催の「インパクト投資に関する勉強会」の開催(計3回)、同勉強会1年目の活動報告書の作成
  - ・GSGインパクト評価・マネジメンワーキンググループによる投資家向けガイドライン・実践ガイドブック・ディスカッションペーパーの作成・発行
  - ・GSG「国内諮問委員会と共催の「インパクト投資フォーラム」(オンライン)の実施(参加者263名)
  - テーマ:「ESG投資のグローバルスタンダード化、インパクト投資の目覚め」
  - 基調講演:天谷知子(金融庁 金融国際審議官)、Sir Ronald Cohen(ロナルド・コーエン卿/GSG会長)など
  - ・「インパクト志向金融宣言」イニシアチブの主導(署名金融機関:27社)
  - 金融機関の存在目的は包括的にインパクトを捉え、環境・社会課題解決に導くことである、という想いを持つ複数の金融機関が協同し、インパクト志向の投融資の実践を進めて行くイニシアチブ。
  - 今後、各署名機関が独自の行動計画をつくり、進捗状況及び知見を共有する。さらに、国内だけでなく、海外に向けても発信を行う。
- 署名機関(抜粋)
- ・アセットマネジメントOne株式会社
  - ・株式会社かんぽ生命保険
  - ・グローバル・ブレイン株式会社
  - ・株式会社新生銀行
  - ・第一生命保険株式会社
  - ・日本ベンチャーキャピタル株式会社
  - ・三井住友トラスト・ホールディングス株式会社
  - ・株式会社三菱UFJ銀行
  - ・三菱UFJ信託銀行株式会社
  - ・リアルテックホールディングス株式会社
  - ・株式会社りそなホールディングス
  - ・立命館ソーシャルインパクトファンド投資事業有限責任組合

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 社会起業家支援
- (1)創業期の総合的な支援モデル構築
  - (2)株式会社アドレスとの協働
  - (3)地域の社会起業家伴走支援
  - (4)休眠預金を通じた社会起業家への財務・非財務支援

(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 社会起業家支援
- (1)創業期の総合的な支援モデル構築
    - ・既存の支援先3社に対し、経営支援、資金調達支援、社会的インパクト評価導入支援等を実施
    - ・投資家インタビューおよびブログ発信の実施。計7社
  - (2)株式会社アドレスとの協働
    - ・関係人口の可視化を中心とした社会的インパクト評価の支援の実施。同社として初のインパクトレポートを協働して作成。
  - (3)地域の社会起業家伴走支援
    - ・既存出資先1社の経営伴走支援の実施。
    - ・第二期のプログラムの企画の完了。
    - ・社会起業家のオンラインコミュニティの開始。
    - ・新規出資の実施。1社(50百万円)
  - (4)休眠預金を通じた社会起業家への財務・非財務支援
    - ・既存事業(2019年度、2020年度)の支援先計10社/コンソーシアムへの、経営伴走支援の実施。
    - ・同事業の成果報告書の制作・発行
    - ・2021年度事業の資金分配団体として採択が決定(助成金額:約246百万円)し、「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」の公募を開始。
    - ・休眠実行団体ワークショップ(リアル開催)参加人数70人超



(3)成功したこととその要因

・創業期の社会起業家支援(日本財団ソーシャルチェンジメーカーズ採択企業)において、支援中の3社中、2社のシリーズA資金調達が成立。約1年半にわたる、当財団のきめ細かな財務・非財務支援、特に、事業が創出するインパクトの可視化、訴求における支援が成功の要因と考える。

・休眠預金、2021年度事業の資金分配団体として「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」が採択された。当事業は、地域の活性化を目的として設立する投資型ファンドのうち、地域金融機関による資金のおよび人的関与が十分に見込まれるものについて、助成を行うものである。地域活性化に資する企業・起業に対して地元の金融機関がより積極的に関与することで、インパクト志向企業の成長が促進されることが本事業の狙いである。過去2年の休眠預金制度の資金分配団体としての実績、および、当財団のインパクト創出を重視した社会的企業支援の実績が、成功の要因と考える。



(4)失敗したこととその要因

・創業期の社会起業家支援(日本財団ソーシャルチェンジメーカーズ採択企業)において、支援中の3社中、1社(株式会社Aster)の助成期間の6か月延長と資金使途の変更。コロナにより、海外市場調査が不可能になったことと、部品調達に遅れが生じたことによる製品製造設備増強の遅延が要因である。助成期間終了まで、丁寧な支援と、厳格なモニタリングに努める。

(5)事業内容詳細

2. 社会起業家支援

(1)創業期の総合的な支援モデル構築

・既存の支援先3社に対し、経営支援、資金調達支援、社会的インパクト導入評価導入支援等を実施  
うち2社は、シリーズA調達が成立。

1社(株式会社Aster)は、助成期間の半年延長と、資金使途の変更(助成金額2千万円)

・起業家支援を目的とする、投資家インタビューおよびブログ発信の実施。計7社

①鎌倉投信②TaliKi③新生企業投資④GLIN ⑤池森VS ⑥KIBOW3号⑦SDGs Impact Japan

(2)株式会社アドレスとの協働

・関係人口の可視化を中心とした社会的インパクト評価の支援の実施。同社として初のインパクトレポート(成果報告書)を協働して作成。

(3)地域の社会起業家伴走支援

・新規出資の実施。1社(50百万円)

出資先:株式会社 Zebras & Company

事業内容:社会課題の解決と持続的な経営の両立を目指す企業「ゼブラ企業」を支援する。具体的には、日本ではまだ事例が少ない資金調達の手法である「プロフィットシェア型資金調達」や「Exit to Community(E2C)」などの資金調達方法の研究・実証を行う。

・既存出資先1社の経営伴走支援の実施(ココホレジャパン株式会社)

・第二期のプログラムの企画の完了。

・社会起業家のオンラインコミュニティの開始。フェイスブックグループでのメンバー120名強

・地域の社会起業家を金融関係者、投資家、支援者に知ってもらうためのカンファレンスイベント「ハルキフェス2022 HALLUCIGENIA Fes 2022」の開催 3/29実施 参加者90名(リアル30名+オンライン60名)

(4)休眠預金を通じた社会起業家への財務・非財務支援

・既存事業(2019年度、2020年度)の支援先計10社への経営伴走支援の実施。

特に、2020年度事業「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」の採択企業は以下の通り

1) 特定非営利活動法人 Local Life Design

東日本大震災後、人口減少、商工事業者の減少が進む女川地域において、女川地域創業コンソーシアムを立ち上げ、新たな事業への投資・融資等を含めた包括的な創業支援体制を構築することで、地域内での雇用を増やし、住み続けられる地域づくりを目指す。

2) 一般社団法人 東の食の会

いまだ復興途上にある福島県浜通り地域の農林水産業・食産業、とりわけ、風評被害が懸念される漁業について、風評のネガティブな影響を上回るポジティブなブランディング、ストーリーの発信等のノウハウを活用してヒーロー生産者やヒット商品を生み出し、域外の販路を拡大し、ファンのコミュニティを創出していくことで復興を進めていく。

3) 特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会

後期高齢者が急増し、医療介護の持続性が大きく揺らぎ出す「2025年問題」を目前に、医療・介護・福祉・行政等の連携を進め、診療機能の調整、人的資源の共有、経営の共同効率化等を通じ、安心して最期まで暮らせる医療・福祉の包括的かつ継続的な提供体制の構築を目指す。

4) 特定非営利活動法人 空き家・空地活用サポートSAGA

防災、景観上、衛生上、防犯上の問題等の観点から解決が望まれる空き家を物流拠点として整備し、同拠点を核に子どものいる経済的困窮家庭への食事提供、同家庭への雇用を創出するためのエコシステムを、他の団体と協業しながら構築することを目指す。

・既存事業(2019年度、2020年度)の成果報告書の制作・発行

・2021年度事業の資金分配団体として採択が決定(助成金額:約246百万円)し、「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」の公募を開始。

本事業では、地域金融機関とエクイティ投資主体が協働する機会を創出し、お互いの知見が交換されることで、地域社会・経済の活性化を支える金融エコシステムの進化を目指す。

・休眠実行団体ワークショップ(リアル開催) 参加人数70人超

実行団体、専門家との交流が図られた。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3. 社会的インパクト評価・マネジメント推進

(1)ヘルスケアニューフロンティアファンドの評価

(2)社会的インパクトマネジメントイニシアチブ運営

(3)調査研究

(2)事業内容の実施(完了)状況

3. 社会的インパクト評価・マネジメント推進

(1)ヘルスケアニューフロンティアファンドの評価

・既存の投資先16社及び新規投資先への社会的インパクト評価・マネジメント実施を支援

・同ファンドの「社会的インパクト評価レポート」作成、発行支援(3年目)

(2)社会的インパクトマネジメントイニシアチブ運営

・同団体の財務基盤を強化するため経営全般の助言を実施。

・金融庁とGSG国内諮問委員会共催の「インパクト投資に関する勉強会」やGSGインパクト評価・マネジメントワーキンググループによる勉強会の企画・運営を協働で実施。

(3)調査研究

・インパクト投資の消費者認知度調査の実施(3年目)

・海外のインパクト投資、社会的インパクト評価・マネジメントに関するレポートの抄訳の発表

(3)成功したこととその要因

ヘルスケアニューフロンティアファンドにおける投資先へのインパクト測定・マネジメントは、ヘルスケア分野において、ベンチャーファンドの社会的インパクトを可視化し公開する国内初の取組である。今年度も、他のファンドから高い注目・関心を集めた。要因としては、客観的情報として社会的インパクト測定が投資家に求められていることと、企業側においてインパクト測定・マネジメントが事業運営の改善に役立つとの認識が定着してきたことが考えられる。

(4)失敗したこととその要因

特になし

(5)事業内容詳細

3. 社会的インパクト評価・マネジメント推進

(1)ヘルスケアニューフロンティアファンドの評価

- ・既存の投資先16社及び新規投資先への社会的インパクト評価実施を支援
- ・同ファンドの「社会的インパクト評価レポート」作成、発行支援(3年目)
- ・第三弾となる2020年度版では、特別企画「VCとしてどう世界を創りたいか～インパクトレポート制作のインパクト～」をテーマに、現役のキャピタリストによる対談を掲載。
- ・また、「このファンドを通じて目指すもの」では、自治体がLP出資を行う意図について、キャピタリストと自治体による対談を掲載。

(2)社会的インパクトマネジメントイニシアチブ運営

- ・同団体の財務基盤を強化するため経営全般の支援・助言を実施。
- ・金融庁とGSG国内諮問委員会共催の「インパクト投資に関する勉強会」やGSGインパクト評価・マネジメントワーキンググループによる勉強会の企画・運営を協働で実施。

(3)調査研究

- ・インパクト投資の消費者認知度調査の実施(3年目)
- ・社会・環境における課題解決を図りながら経済的な利益を目指す「インパクト投資」の認知度 6.6%、関心度 17.2% 7割以上の潜在顧客が機関投資家の「インパクト投資」に肯定的
- ・海外のインパクト投資、社会的インパクト評価に関するレポートの抄訳の発表

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

**助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の目標欄の内容を転記してください。**

1. インパクト投資推進

- (1)出資先事業等が社会課題解決の事例として発展し、他の資金提供者のモデルとなる
- ・日本インパクト投資2号ファンドを通じて社会課題解決型ベンチャーに3社以上、出資、全出資先で社会的インパクト評価・マネジメント導入
- (2)インパクト投資を促進するための知見の共有
- ・インパクト投資に関する金融庁勉強会の継続およびワーキンググループの新規設立、インパクト投資に関するレポート等を2つ以上発行

2. 社会起業家支援

- (1)社会起業家への出資・経営支援を通じて社会課題解決に取り組むモデル企業が増加し、支援のノウハウを他の資金提供者と共有する
- ・創業期の社会起業家の経営支援の実施と社会的インパクト評価・マネジメントの導入
- ・地域の社会起業家伴走支援の実施
- ・休眠預金事業を通じて社会起業家支援のコンソーシアム5社程度を支援

3. 社会的インパクト評価・マネジメントの推進

- (1)社会的インパクト評価・マネジメントの好事例を生み出し、日本における最先端モデルとして認知される
- ・ヘルスケアニューフロンティアファンド全投資先へ社会的インパクト評価の実施と評価結果の公表
- (2)社会的インパクト評価・マネジメントが日本で発展するための知見共有や制度的な後押しが進む
- ・社会起業家の株式上場の新たな仕組みや制度に関する議論が官民協働で開始される

文字数制限  
あることを

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	431	文字数チェック	OK
<p>事業完了後の目標達成状況を700文字以内で明記してください。 ※目標を複数設定している場合は、各目標ごとの達成状況を個別に記入してください。</p> <p>1. (1)の達成状況: 達成。4社出資決定。全出資先で社会的インパクト評価・マネジメント導入予定 1. (2)の達成状況: 達成。レポートは4つ(現状レポート、休眠、ヘルスケア、IMMガイドライン) 2. (1)の達成状況: 達成。創業期経営支援3社。社会的インパクト評価・マネジメントの導入1社 地域の社会起業家伴走支援2社 休眠預金コンソーシアム4社 3. (1)の達成状況: 達成。全投資先16社へ社会的インパクト評価の実施と評価結果を、2020インパクトレポートとして発行 3. (2)の達成状況: 達成。社会起業家の株式上場の新たな仕組みや制度に関するコンセプトペーパー(背景、課題認識、国内外事例、今後に向けて)を4月末完成を目指して執筆中</p>			

3.事業実施によって得られた成果

<p>事業完了後、事業成果が実現するまでにある程度の時間を要する場合、実現すると見込まれる事業成果は「****年**月頃に****が****になっていると見込まれる」のかを記載して下さい。 複数年計画がある場合、複数年計画の「****年**月頃に****が****になっていることを目指す」のかを、最終目標(中長期目標)として記載して下さい。 施設や機器整備した場合、整備した数年後に見込まれる成果(例えば2年後、3年後)を設定し、「****年**月頃に****が****になっていると見込まれる」かを、中長期目標として記載して下さい。</p> <p>1. インパクト投資の推進 ・インパクト投資の先行事例としての日本インパクト投資2号ファンドの投資先を充実させ、後発のインパクトファンドに対し、広く啓蒙することができた。 ・インパクト投資実践者・政府関係者のコミュニティ運営において、27の大手金融機関のインパクト志向宣言への署名を通じて、具体的なインパクト創出のアクションへの取組を促すことができた。</p> <p>2. 社会起業家の支援 ・社会的企業を財務・非財務両面から支援することで、複数の事例で事業の飛躍的な成長を実現した。 ・当財団がハブとなり、社会起業家のネットワークを形成することができた。</p> <p>3. 社会的インパクト評価・マネジメントの推進 ・社会的インパクト評価・マネジメントのガイドラインを示すことで、日本の金融機関の導入が進んだ。その結果、インパクト投資の国内の残高も順調に増加した。</p>
--

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

<p>これまでの活動で、手法としてのインパクト投資の認知と期待は、日本国内において著しく高まった。インパクト志向のビジネスや投融資は、モデル作りのフェーズを越えて、そもそもの目的である社会課題の解決と新たな価値創造を実際に起こせることを実証する時期に来ていると考える。 今後は、インパクト投資を始めとする「新しい経済」の取組が実際に社会変革に繋がる事例をつくり、質の高い実践を社会全体に波及させることを目指して、新たな事業に取り組んでいきたい。</p>
--



## 5.事業成果物

### (1)助成契約書記載の成果物名称

助成契約書記載の成果物名称を転記してください。

1. 日本インパクト投資2号ファンド インパクトレポート
2. 日本におけるインパクト投資の現状レポート
3. ヘルスケアニューフロンティアファンド インパクトレポート
4. アニュアルレポート



### (2)事業完了時の成果物名称

実際に作成した成果物の名称を記載してください。

※チラシ、ポスター等の印刷物については  
作成枚数を追記いただけますようお願いいたします。

- レポート
  - ・ SIIFアニュアルレポート2020:200部
  - ・ ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド インパクトレポート2020(ヘルスケア分野特化VC「社会的インパクト評価レポート 2020」):600部
  - ・ 2021年度インパクト投資に関する一般消費者調査:PDFデータのみ
  - ・ SIIF休眠預金事業インパクトレポート:300部
  - ・ 日本におけるインパクト投資の現状と課題 2020:300部
  - ・ 日本におけるインパクト投資の現状と課題 2021:PDFデータのみ(未公開・2022年4月公開予定)
  - ・ インパクト投資実践のためのインパクト測定・マネジメントに係る指針:PDFデータのみ
  - ・ インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック:PDFデータのみ
  - ・ IMMのグローバルスタンダード作りに向けたディスカッションペーパー:PDFデータのみ
  - ・ 金融庁・GSG 国内諮問委員会共催インパクト投資に関する勉強会 第一フェーズの到達点と今後の課題:PDFデータのみ
  - ・ 「インパクトタスクフォース」による報告書(日本語訳・デザイン部分のみ):PDFデータのみ
- ウェブサイト
  - ・ インパクト志向金融宣言ウェブサイト
- イベント
  - ・ 第四回インパクト投資オンラインセミナー
  - ・ 第五回インパクト投資オンラインセミナー
  - ・ インパクト測定・マネジメント(IMM)実践ガイドブック解説セミナー
  - ・ 日本の投資家向けGIIN COMPASS 解説会(英語セッション)
  - ・ インパクト投資フォーラム2021「ESG投資のグローバルスタンダード化、インパクト投資の目覚め」
  - ・ 2019・2020年度休眠預金事業およびオルタナティブ事業支援先合同セッション
  - ・ ハルキゲニアフェス2022
  - ・ インパクト志向金融宣言 記者会見
  - ・ 成果連動型契約(PFS)/ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)に関する研究会(2021年度)
- ハルキゲニアフェス2022関連の制作物
  - ・ ポスター×5部
  - ・ オルタナティブ事業説明小冊子×700部
  - ・ 小冊子付録シール×700部
  - ・ 小冊子付録下北沢ガイドマップ×700部
- 動画
  - ・ インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック概要
  - ・ 日本におけるインパクト投資の現状と課題～2020年度調査報告書の概要説明～
  - ・ SIIFの社会起業家支援2021年度 長尺(約10分)
  - ・ SIIFの社会起業家支援2021年度 短尺(約3分)
  - ・ インパクト志向金融宣言(未公開・2022年4月公開予定)
  - ・ 社会・環境課題解決型資金の流れ(未公開・2022年4月公開予定)
- プレスリリース
  - ・ SIIFが発信したプレスリリースの発信:17本
- ブログ
  - ・ SIIFの活動について発信したブログ記事:39本
- メディア取材
  - ・ SIIFの活動に関するメディアによる取材・掲載:78本

### (3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。  
未作成のものはありません。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ [https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra\\_gui\\_01-1.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf) (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

■レポート

- ・ SIIF アニュアルレポート2020

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/07/SIIF\\_2020\\_report\\_web\\_new.pdf](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/07/SIIF_2020_report_web_new.pdf)

- ・ ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド インパクトレポート2020(ヘルスケア分野特化VC「社会的インパクト評価レポート 2020」)

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/07/HNFF2020\\_FINAL\\_mhiraki.pdf](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/07/HNFF2020_FINAL_mhiraki.pdf)

- ・ 2021年度インパクト投資に関する一般消費者調査

<https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/09/2021%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%AF%E3%83%88%E6%8A%95%E8%B3%87%E4%B8%80%E8%88%AC%E6%B6%88%E8%B2%BB%E8%80%85%E8%AA%BF%E6%9F%BB.pdf>

・ SIIF 休眠預金事業インパクトレポート

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/01/SIIF%E4%BC%91%E7%9C%A0%E9%A0%90%E9%87%91%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88\\_S.pdf](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/01/SIIF%E4%BC%91%E7%9C%A0%E9%A0%90%E9%87%91%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88_S.pdf)

・ 日本におけるインパクト投資の現状と課題 2020

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/04/2020\\_SIIF\\_impact\\_report-1.pdf](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2021/04/2020_SIIF_impact_report-1.pdf)

- ・ 日本におけるインパクト投資の現状と課題 2021

PDF未公開(2022年4月公開予定)

- ・ インパクト投資実践のためのインパクト測定・マネジメントに係る指針

[https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/GSG\\_guiding\\_principles.pdf](https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/GSG_guiding_principles.pdf)

- ・ インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック

[https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/Guidebook\\_for\\_Impact\\_Measurement\\_and\\_Management.pdf](https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/Guidebook_for_Impact_Measurement_and_Management.pdf)

- ・ IMM のグローバルスタンダード作りに向けたディスカッションペーパー～日本からの考察

[https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/Discussion\\_Paper.pdf](https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/Discussion_Paper.pdf)

- ・ 金融庁・GSG 国内諮問委員会共催インパクト投資に関する勉強会 第一フェーズの到達点と今後の課題

[https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/Achievements\\_of\\_the\\_first\\_phase\\_and\\_future\\_tasks.pdf](https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/Achievements_of_the_first_phase_and_future_tasks.pdf)

- ・ 「インパクトタスクフォース」による報告書(日本語訳・デザイン部分のみ)

[https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/impact\\_taskforce\\_jpn.pdf](https://impactinvestment.jp/user/media/resources-pdf/impact_taskforce_jpn.pdf)

■ウェブサイト

- ・ インパクト志向金融宣言ウェブサイト

<https://www.impact-driven-finance-initiative.com/>

■イベント

- ・ 第四回インパクト投資オンラインセミナー

<https://impactinvestment.jp/news/advocacy/20211115.html>

- ・ 第五回インパクト投資オンラインセミナー

<https://impactinvestment.jp/news/advocacy/20211201.html>

- ・ インパクト測定・マネジメント(IMM)実践ガイドブック解説セミナー

<https://impactinvestment.jp/news/advocacy/20220215.html>

- ・ 日本の投資家向けGIIN COMPASS 解説会(英語セッション)

<https://impactinvestment.jp/news/advocacy/20210730.html>

- ・ インパクト投資フォーラム2021「ESG投資のグローバルスタンダード化、インパクト投資の目覚め」

<https://impactinvestment.jp/iif/2021/index.html>

- ・ 2019・2020年度休眠預金事業およびオルタナティブ事業支援先合同セッション

[https://note.com/siif\\_pr/n/na27c540f564d](https://note.com/siif_pr/n/na27c540f564d)

- ・ ハルキゲニアフェス2022

<https://halluci-fes2022.peatix.com/>

- ・ インパクト志向金融宣言 記者会見

<https://www.youtube.com/watch?v=qfy4lygKjp0>

- ・ 成果連動型契約(PFS)/ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)に関する研究会(2021年度)

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/01/SIB-press-release\\_20220114.pdf](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/01/SIB-press-release_20220114.pdf)

■ハルキゲニアフェス2022関連の制作物(印刷配布物のみ)

- ・ ポスター × 5部

- ・ オルタナティブ事業説明小冊子 × 700部

- ・ 小冊子付録シール × 700部

- ・ 小冊子付録下北沢ガイドマップ × 700部

■動画

- ・ インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック概要

<https://www.youtube.com/watch?v=cGMXOWj4OLo&feature=youtu.be>

- ・ 日本におけるインパクト投資の現状と課題～2020年度調査報告書の概要説明～

<https://www.youtube.com/watch?v=8cQCf2YgztM>

- ・ SIIFの社会起業家支援2021年度 長尺(約10分)

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/03/SIIF\\_FY2021\\_L.mp4](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/03/SIIF_FY2021_L.mp4)

- ・ SIIFの社会起業家支援2021年度 短尺(約3分)

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/03/SIIF-matome\\_short2.mp4](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2022/03/SIIF-matome_short2.mp4)

- ・ インパクト志向金融宣言記者会見

<https://www.youtube.com/watch?v=qfy4lygKjp0>

未公開(2022年4月公開予定)

- ・ 社会・環境課題解決型資金の流れ

未公開(2022年4月公開予定)

■プレスリリース

[https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company\\_id/49509](https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/49509)

■ブログ

[https://note.com/siif\\_pr/](https://note.com/siif_pr/)

■メディア取材

<https://www.siif.or.jp/media/>

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

団体名： 一般財団法人 社会変革推進財団

事業名： 自助・公助・共助の枠組みを超えた社会的・経済的資源循環のエコシステム形成

(収入の部)

(単位：円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	未収額 自動計算(A-C)	助成金返還見込額 自動計算(A-B)
①日本財団助成金収入	490,090,000	366,722,000	490,090,000	0	123,368,000
②自己負担		608	608		
③収入合計	490,090,000	366,722,608	490,090,608	0	123,368,000

(支出の部)

(単位：円)

費目	日本財団承認済の 予算額 (x)	決算額 (y)	支出済額 (z)	未払額 自動計算(y-z)	補足説明、備考
有価証券取得	12,300,000	0	0		
支払助成金	15,000,000	0	0		
助成事業費	5,000,000	10,000,000	10,000,000		
業務委託費	92,144,000	66,457,472	55,315,062	11,142,410	
調査研究費	14,060,000	9,585,000	4,875,000	4,710,000	
役員報酬	51,435,000	51,490,004	51,490,004		
評議員報酬	900,000	840,000	840,000		
役員退職慰労金引当	2,376,000	2,376,000	2,376,000		
給与手当	151,676,004	120,974,100	120,974,100		
法定福利費	32,134,000	24,036,788	22,195,474	1,841,314	
通勤手当	3,000,000	814,050	814,050		
福利厚生費	4,595,000	1,336,088	1,316,838	19,250	
臨時雇賃金	1,056,000	960,762	960,762		
人材派遣	5,292,000	2,757,666	2,482,503	275,163	
出向負担金	4,000,000	4,000,000	4,000,000		
投資委員報酬	2,400,000	80,000	80,000		
広報費	12,933,960	14,097,720	10,915,270	3,182,450	
会場費	1,570,000	1,525,910	1,061,060	464,850	
諸謝金	5,323,000	2,454,994	1,020,000	1,434,994	
印刷製本費	8,800,000	5,177,963	1,949,423	3,228,540	
諸会費	1,538,000	3,654,355	3,654,355		
会議費	3,642,000	439,202	389,442	49,760	
研修費	5,000,000	1,829,343	1,499,343	330,000	
国内旅費交通費	14,402,080	3,782,472	3,111,710	670,762	
海外旅費交通費	8,805,000	0	0		
備品費	1,100,000	459,973	459,973		
事務用品費	699,000	501,768	485,096	16,672	
通信費	10,974,200	8,946,914	8,946,914		
地代家賃	19,059,000	19,420,627	19,420,627		
水道光熱費	564,000	190,074	190,074		
事務機器リース料	1,005,000	488,997	488,997		
図書新聞費	1,063,000	567,915	539,125	28,790	
顧問料	7,920,000	6,089,281	5,687,781	401,500	
支払手数料	3,710,000	0	0		
保険料	235,000	244,800	244,800		
租税公課	618,000	225,930	223,830	2,100	
雑費	1,878,460	846,440	778,280	68,160	
法人税等	300,000	70,000	0	70,000	
事業収益等 (予算調整額)	-20,917,700 2,499,996		0 0		
支出合計(端数調整前)	490,090,000				



端数調整欄	-				
④支出合計(端数調整後)	490,090,000	366,722,608	338,785,893	27,936,715	

※助成金・負担金額の確定は監査終了後、当財団よりご連絡いたします。  
 ※予算額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じます。

【返還見込額の発生有無】

返還見込額の発生
有り

※「有り」の場合は予算額に対し決算額が下回っているため、返還金が発生する可能性があります。  
 「返還見込額算出シート」で返還金をご確認ください。

【一致確認】

※NGが出た際は、入力が間違っているかもしれませんので該当項目を再確認してください。

予算額 (ア) ③収入合計	OK
予算額 (イ) ④支出合計	OK
決算額 (ウ) ③収入合計	OK
助成金返還見込額	OK

セルフチェック項目

(ア).(収入の部)の予算額 (A)の①日本財団助成金収入と③収入合計は、  
 契約書に記載されている助成金額及び事業費総額と一致しているか。

(イ).(収入の部)の予算額(A)③収入合計と  
 (支出の部)の日本財団承認済の予算額(x)④支出合計が一致しているか。

(ウ).【一致確認】欄は全て「OK」であるか。